

聖徳大学

音楽学部音楽学科

音楽療法士の資格について

めざそう音楽療法士



音楽療法士とはどんな仕事？

音楽療法士は、音楽療法を受ける対象者のこころや行動、さらには身体機能等のさまざまな問題の改善に向けて、場合によっては、他の専門の職員（医師、理学療法士、作業療法士、心理療法士保育士等々）と連携しながら、音楽療法を実施しています。

音楽療法士の臨床の場は、障害児・者や高齢者の施設および病院が主流となっています。たとえば、施設に入っておられる認知症の高齢者の方々や、さまざまな疾患で病院に入院している方々が対象となります。そこで、音楽療法士はまず、対象者の病状、その病気から起こる障がいや度合い等をしっかり理解し、ひとりひとりのニーズを把握することから仕事は始まります。ひとくちにニーズといっても多様で、たとえば、「身体機能の回復や維持を目指すこと」が目標の方もいれば、心や行動の改善を目指すため「コミュニケーション能力を高めること」、「社会性や協調性を培うこと」などが目標に挙げられる方など、それは様々です。このように音楽療法士は対象となる人々の各々のニーズを十分に理解したうえで、それに応えるように音楽を使って接してゆきます。

そこでは、かかわり方や言葉によるコミュニケーションも重要になります。また、「なぜ」音楽活動を行うのか（目的）、「どのように」音楽活動を行うのか、さらに「音楽活動によって対象者がどう変わったか」（評価と考察）を常に追求しながら、音楽療法を実践してゆく必要があります。

音楽の使い方をもう少し詳しくお話ししてみましょ。たとえば子どもへの音楽療法では発達の援助として音楽を用いることが多くあります。対象者が楽しんで興味を持つ音楽を使って順番に演奏することによって、少しずつ何かを順番に行うという社会性を身につけていたり、様々な楽器に触れることによって色の違いや物の大小といった概念を認知できるようになったり、といったことが目標になることがあります。高齢者の音楽療法では、他者と交流するのが苦手な方でもグループで同じ歌をうたったり、楽器を演奏したりすることによって気分がほぐれ改善し、いきいきと活性化していくといった変化が見られます。このように対象者によって音楽の使い方は違ってきます。



音楽療法士はどんなところで活躍？

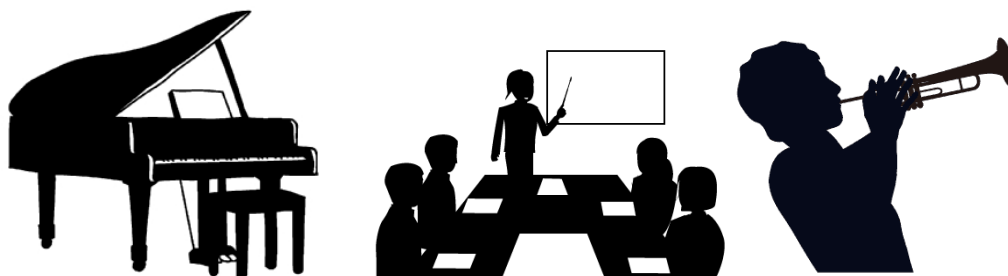
わが国では「医療」「福祉」「教育」「保健活動」等といった多様な分野に応えられるよう、音楽療法士がさまざまな立場で意図的に音楽を使用して、治療的效果をあげています。

例えば**医療の分野**では、心身医療、精神科医療、緩和ケア、小児医療の分野で音楽が盛んに使われています。心のケアやリハビリテーション、発達療育など、目的は様々ですが、音楽療法士の活躍の場が増えています。特に最近ではリハビリテーション医学の分野で高次脳機能障害や失語症、運動機能障害の機能回復に効果を発揮しています。

福祉の分野では、おもに障害児発達支援センター、療育施設、通所施設、児童デイケアセンター、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター等で、発達支援としての治療教育や機能のリハビリテーション、あるいは高齢者のケアの一環として音楽療法士が活躍しています。日本で音楽療法士が一番活躍している分野でもあります。

教育の分野では、近年、音楽の先生が音楽療法士の資格を取得し、学力促進学級、特別支援学校等で教育活動に役立っています。また、音楽教室等でも個別または小集団で行われるようになってきました。音楽療法メジャーにおいても中学校・高等学校一種教員免許状(音楽)を取ることは可能であり、この分野でも活躍できる音楽療法士を育成しています。

聖徳大学の音楽療法コース卒業生はこれまでに 386 名に達し、その中で多くの卒業生は全国各地で主に福祉や教育の分野を中心に音楽療法を行なって活躍しています。



音楽療法士になるためにはどんな勉強をするの？

音楽療法士は施設や病院で対象となる方々の症状、病状を理解し、彼らのニーズを把握し、音楽を介してコミュニケーションを取ることができるような人です。そのために大学では、**音楽技能**（特に歌唱と鍵盤楽器の演奏技術）を磨き上げながら**音楽療法技能**を学んでゆきます。この**音楽療法技能**には、音楽療法の現場に活かせるような**歌唱**、**コード奏法**（コード・ネームによる伴奏法）、**即興**などが含まれます。さらに大切なのは、音楽療法そのものの学びと音楽療法に関連する領域の勉強です。**医学**、**心理学**、**障害学**、**福祉学**などを幅広く学びます。

本学音楽療法士のカリキュラムは、**2年次から臨床実習**を組み入れています。また音楽の基礎から応用まで**個々の実力に合った指導**を重視しており、4年間にわたり系統だったカリキュラムを組んでいます。大卒の流れは次のようになります。

1年次	音楽の基礎的な知識と技術	音楽基礎理論、西洋音楽史、ソルフェージュ、実技レッスン、合唱（第九）、音楽キャリアデザイン
	音楽療法の基礎的な理論と技術、関連領域の学習	音楽療法概論、音楽療法技能（歌唱・伴奏）、社会福祉概論、障害児教育論、医学概論
2年次	音楽の基礎的な知識と技術	和声法、実技レッスン
	音楽療法の基礎的な理論と技術、関連領域の学習	音楽療法の理論と技法、音楽療法各論（障害児・者、高齢者・緩和ケアの音楽療法）、音楽療法技能（作曲・編曲・アンサンブル・指揮）、音楽療法演習、発達心理学、臨床心理学、リトミック*、民族音楽学概論、教育基礎論、合奏、指揮法、
	施設実習	社会福祉施設等での支援体験実習
3年次	音楽療法の応用技術、関連領域の学習	音楽療法技能（即興演奏）、音楽療法各論（精神科・心療内科の音楽療法）、音楽心理学、臨床医学各論、臨床心理学、介護概論、ギター演習*、日本音楽演習（歌唱）、音楽家のためのリテラシー
	音楽療法実習	介護老人保健施設等での音楽療法実習
4年次	卒業研究	各自、テーマを決めて音楽療法に関する研究を行い、卒業論文を書き、発表する。
	音楽療法実習	子どもの発達支援施設等での音楽療法

*どちらか1つ。

音楽療法士の資格とは？

現在、日本には民間資格として音楽療法士の認定をする2つの代表的な組織があります。**全国音楽療法士養成協議会**と**日本音楽療法学会**の2つです。

全国音楽療法士養成協議会には音楽療法士養成課程を持つ全国の大学と短期大学が21校加盟しています。決められたガイドラインに沿って科目を修得すれば、卒業時に音楽療法士（1種）または（2種）資格が取得できます。（1種は大学、2種は短期大学での資格になります。）本学音楽療法メジャーでの科目をすべて満たせば、卒業時に申請することによって**全国音楽療法士養成協議会認定音楽療法士（1種）**の資格を得ることができます。さらに本学大学院では音楽療法士（専修）資格を取ることができます。これらの資格には更新制度がなく、取得するとずっと保持していくことができます。

日本音楽療法学会は、全国に約5,000名の会員が属している学術組織で、おおむね年に1～2回学術大会を全国規模、支部規模の両方で催し、様々な講習会を主催すると同時に音楽療法士の資格認定も行なっています。こちらの資格を取得するためにはまず学会が指定する様々な科目を修得し、**受験資格**を得なければなりません。4年次に音楽療法士資格審査（筆記試験）と面接試験（弾き歌いを含む）を受け、これらの試験に合格することによって**日本音楽療法学会認定音楽療法士**の認定資格が得られます。この資格は、5年ごとの更新が必要となります。

音楽療法士受験資格に必要な科目は音楽療法士（1種）に必要な科目よりも多少多くなります。

今のところ日本の音楽療法士の資格は国家認定ではありません。日本音楽療法学会が中心となって、国家資格化に向けてさまざまな活動を展開しています。

本学のカリキュラムでは**音楽療法士（1種）**の資格と**音楽療法士受験資格**の両方を取ることができます。

日本音楽療法学会は音楽療法士として活躍している臨床家の集まりであり、日本で一番大きい音楽療法の学術団体です。将来さまざまな情報を得る機関でもありますから、**音楽療法士受験資格**を取得することもお勧めしています。

あなたはどんな将来、どんな夢をもっていますか？

○音楽療法士の資格をとって「医療」「福祉」の現場で活躍したい！

(高齢者や障害者の施設ではいま需要が広がっています。)

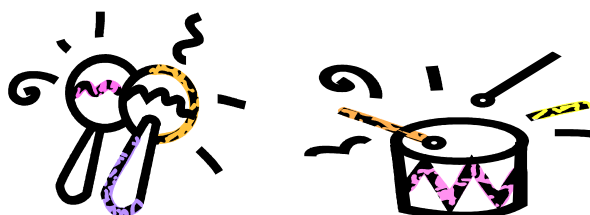
聖徳大学の卒業生の中には、介護職員初任者研修や保育士の資格を在学中に取得し、各方面で施設職員兼音楽療法士、あるいは音楽療法士として活躍している人がいます。現場の経験を経て介護福祉士やケアマネージャーの資格を取得した人もいます。



○学校の音楽教師を目指したい！

(特に特別支援学校の先生が音楽療法士の資格を取得し、授業に役立てています。)

音楽療法士と同時に中学校、高等学校の音楽の教員免許も取得することができます。音楽療法を学んで中学校、高等学校の教員、特別支援学校の教員として活躍している卒業生が多くいます。



○大学院に進んでさらに勉強を深めたい！

(本学には大学院博士前期課程(修士)と博士後期課程(博士)が設置されています。)

学部での4年間の勉強の上、さらに音楽療法について深く学究を続けたい学生は大学院の音楽療法コースに進み、勉強することが可能です。

みなさんそれぞれ将来の夢はいろいろお持ちでしょうが、音楽療法を勉強することはさまざまな分野で役に立ちます。

今まで勉強した音楽を役立てて世の中の人々に貢献したい！

音楽が人々の生活を潤わせていく理由をもっと探してみたい！

音楽の教師になりたいけれど、音楽療法的なアプローチも身につけたい！

人とのかかわり方を身につけ、音楽がどのように心に影響を及ぼすかを理解できる音楽家になりたい！

いろいろな楽器を使って人と交流する方法を学びたい！ など

卒業後の進路は？

聖徳大学の音楽療法コース卒業生は多方面で活躍しています。2004年度～2020年度卒業生の進路をご紹介します。

福祉施設

(音楽療法支援センター、高齢者施設〈音楽療法士、介護職員、生活相談員、等〉、知的障害者更生施設、知的障害者支援施設〈音楽療法士、指導員、支援職員〉、障害者支援施設〈指導員、支援職員〉、身体障害者施設、こども音楽センター、重症心身障害児施設、障害児通園施設、発達支援事業所、等)

病院

(緩和ケア病棟、精神科、リハビリ科、等)

進学

(大学院、専門学校〈保育士、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、等〉)

教職関連

(本学助手、本学附属高校教諭、中学校教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭〈ろう学校、盲学校を含む〉、スクールカウンセラー)

音楽教室講師

NPO 法人

一般企業

その他、ミュージシャンとして活躍している人、ブライダル関係の会社で音楽の企画プロデュースを担当している人、聖徳の音楽療法コースの卒業生はそれぞれが目的を持ってさまざまな方面で活躍しています。



聖徳大学の音楽療法士になるための教育の特色は？

- ・ 音楽の基礎から応用まで、**各自の能力にあった教育**を徹底しています。
- ・ 3～4 年次の音楽療法実習よりも前に、福祉関係の施設における**施設実習**（体験型実習）を本学独自で 2 年次に実施しており、まずは福祉の現場と対象者に関わることに慣れていくように配慮しています。
- ・ 地域に溶け込んだサービスを理念とした音楽療法を実施していますので、**施設実習**を体験した後、地域の福祉施設で**音楽療法の実習**を体験できます。
- ・ 就職に関してはキャリア支援室をはじめ、音楽療法の専任の教員が親身になって相談のります。
- ・ 音楽療法士資格審査（筆記試験）に向けて、4 年次春学期から過去問題を解く勉強会を行い、秋学期には受験のための特別講習会を課外に行っています。
- ・ 本学音楽療法コースを勉強した**卒業生のための研修会**を毎年開催し、現場での悩みの相談に応じたり、事例の書き方などをサポートしたりしています。さらに、学会認定音楽療法士の資格更新のためのポイントを獲得できる「音楽療法士のための講座」を開催しています。



参考図書

- 村井靖児 1995 『音楽療法の基礎』 東京：音楽之友社。
- 高橋多喜子 2010 『補完・代替医療 音楽療法 改訂 2 版』 京都：金芳堂（初版 2006）。
- 日野原重明（監修）、篠田知璋・加藤美知子（編集） 2002 『標準 音楽療法入門（上）（下）実践編 改訂版』 東京：春秋社（初版 1998）。
- W. B. デイビス、K. E. グフェラー、M. H. タウト（編）、栗林文雄（監訳）、廣川恵理・猪狩裕史・糟谷由香（訳） 2015 『第 3 版 音楽療法入門 理論と実践（I・II・III）』 札幌：一麦出版社（初版 1997）。

お問い合わせ先

